



ASAHI University News Letter

vol.143

January 2023

発行日/隔月1日  
編集・発行/朝日大学 総務部



朝日大学HP

## 「建学の精神」具現化に向けて

2023年を迎え、宮田淳理事長から新年の挨拶とともに、朝日大学の今年の基本方針が述べられました。

「建学の精神」の継承と具現化に全教職員一致して邁進しようというもので、地道にこれを進めていくことこそが「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりの根幹であるとしています。また、大友克之学長、森下伊三男副学長、田村康夫副学長並びに江尻貞一副学長からも、年頭所感がそれぞれ寄せられました。



ローズパレード出場旗授与式(2022年9月 本大学穂積キャンパス大講義室にて)

## 「建学の精神」具現化に向けて

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2022年は、COVID-19感染症拡大防止のための行動制限がなくなり、また全国旅行支援などの取り組みもあり、コロナ前の社会生活・経済活動の再開となりましたが、年末に向けての第8波の感染拡大もあり、完全にコロナ前の社会生活・経済活動に戻るには、まだ時間を要すると思われます。また、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻による石油・天然ガスなどの資源価格の高騰に端を発したインフレがアメリカ・ヨーロッパを襲いました。我が国においても、アメリカ・ヨーロッパの金利政策の余波を受けた大幅な円安による輸入物価の高騰により、食料品をはじめとした生活必需品の値上げラッシュが国民生活を直撃しています。さらに、世界各地において、地球温暖化による影響と考えられる大雨などの異常気象が平穏な住民生活を脅かしています。

本学においては、朝日大学病院が今なおコロナとの闘いを続けていますが、学生の学修機会の確保のため、COVID-19感染症の感染防止対策を万全に行った上での全面的な対面授業の再開、学生の短期海外研修派遣・受入れによる国際交流関係事業の再開などの取り組みを行ってきました。また、災害に見舞われた本学学生の支援に加え、留学生の受入れを行っているトンガ王国に対して「トンガプロジェクト」によりトンガ大洋州噴火による津波被害(2022年1月)への支援、戦禍から逃れたウクライナ人学生支援のための「ウクライナ支援プロジェクト」による留学生の受入れ・生活支援などを行ってきました。

法学部では、法学部学生による自主防犯ボランティア団体「めぐる」が、「令和4年度安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」を受賞、経営学部では6名(卒業生2名を含む)が公認会計士論文式試験に合格し、合格者は累計56名となりました。歯学部では、2年生の学生が、日本歯科医師会主催の第28回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会において、「Development of a

chairside-type pressure variable sandblaster.(チェアサイドで使用可能な圧力可変式サンドブラスターの開発)」の演題で発表を行い、みごとに優勝し日本代表に選ばれ、2023年3月15日からアメリカオレゴン州ポートランド市で開催される「AADR / SCADA大会」に招待され発表することとなりました。



理事長 宮田 淳

2023年度においても、建学の精神の具現化を目指し、新たな時代を見据えた学修者本位の教育の実現に向けた教育の質保証、研究の高度化を図るとともに、本学の教育研究活動等の魅力・強みを効果的な広報活動等により積極的に情報発信し、全学部全学科において、アドミッション・ポリシーに基づく優秀な学生を受入れ入学定員の充足を目指します。また、私立大学が主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、時代の変化に対応した大学づくりを進めることを目的として、学校法人朝日大学ガバナンス・コードを制定し、学生をはじめ様々なステークホルダーに対して、本学の教育、研究及び社会貢献の機能を最大化し、価値の向上を目指していきます。

私立大学は一段と進む少子化により厳しい経営を余儀なくされていますが、中長期的視点に立った計画的な経営を進めていくとともに、学長のリーダーシップの下、教職員が一致団結して「建学の精神」に基づく人材育成を行うことで、未来を担う人材育成という高等教育機関に課せられた使命を果たしていく所存です。

本年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ポスト・コロナの世界に向けて

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。

昨年を振り返りますと、2月にはロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。遠く極東の地に身を置く私どもとしては予期せぬ侵攻となりました。その絶対的な武力の差から、短期間で紛争が終わるものと予期しておりましたが、大義なき侵略者と、愛する家族を、そして母なる故郷を守るために戦う者との間には前述の差を覆すほどのパワーがあることを知りました。朝日大学としていかなる状況下にあっても反戦を訴えるために、学長名で緊急声明を公開しました(<https://www.asahi-u.ac.jp/topics/2022/12436/>)。平和を希求する明解なメッセージは内外から大きな共感を得ました。

ウクライナの歴史的背景、またなぜ侵攻が起こったのか? こういった諸課題を学ぶため、5月20日には教職員研修会を開催。元・駐ウクライナ特命全権大使の角茂樹氏をお招きして「ウクライナ情勢～ウクライナ国民は何を望んでいるのか～」と題するご講演を賜りました。氏の熱いメッセージを拝聴し、私どもは同国支援の意志をさらに強固なものとなりました。

ウクライナからの避難学生の受入れについては学長事務室、入試広報課、留学生別科が連携して努力して参りました。本大学の受入れ要項を独立行政法人日本学生支援機構のホームページにアップしたところ、ウクライナ本国から多くの問合せがありました。堪能な英語を駆使してウクライナ国内の現況を伝えてくる数々のメールの行間から、時々刻々と変化する侵攻の情勢を読み取ることができました。第二次世界大戦時下、リトアニアの日本大使館領事代理として、ユダヤ人に命のビザを出し続けた岐阜県出身の外交官・杉原千畝氏の精神に則り、朝日大学の門戸を開き、その結果、夏にかけて計8名の学生に入学許可を出すことができました。しかしながら激化する戦況により若者の出国は困難を極め、実際に本大

学への入学を果たせたのは男性2名、女性1名となりました。彼らの入国にあたっては、ウクライナ当局のみならず、日本の外務省、文部科学省、名古屋出入国在留管理局、そして地元岐阜県や瑞穂市からのご支援、またご指導を賜りました。また彼らの生活に対して関連団体、県内企業様からさまざまな支援を頂戴しました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。一方で、未だ入国を果たせていない5名の学生の無事と、一日も早い平穏をただただ祈るばかりです。

一方、ウィズ・コロナを見据えて、海外の提携校との学生間交流を再開しました。2022年8月にはテキサス大学サンアントニオ校、メキシコ州立自治大学へ、9月にはハワイ大学マノア校に本学学生を派遣。また9月後半にはメキシコ州立自治大学から、12月には中国・南昌大学、イタリア・シエナ大学から学生を受入れました。これは新型コロナウイルスが変異をすることで若年者が感染した場合、多くのケースで重症化しないとの前提に立っての判断でしたが、我が国の出入国もこの判断を迫認するかのように9月上旬に水際対策を緩和しました。さまざまな国とのリアルな交流を通じて、改めて国際化推進の重要性を再認識しました。

朝日大学附属の医療機関では、今なおコロナとの闘いが続いております。とくにコロナ病棟や発熱外来を担う朝日大学病院の教職員に対して、改めて敬意を表すとともに、彼らの使命感と誠実さ、そして彼らの家族のサポートにも心からの感謝を申し上げます。

私どもは今年も教育の原点に立ち戻り、「学生の学びを止めない」、そして「地域医療を守る」ため努力を続けて参ります。皆さんと共にポスト・コロナの世界を創造しましょう。



学長 大友 克之

## 「魅力ある大学」を目指して

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

相変わらずコロナ感染症の波が断続的に発生し、新規感染者数のグラフを見ると後ろの波ほど山が高く、昨年末からの第8波はどうなるのだろうか、と心配の種は尽きません。しかし、ウィズ・コロナの環境が徐々に整っていき、コロナ対策をした大学のキャンパスは学生が落ち着いて勉学に励むことのできる環境になりつつあります。

さて、最近、社会課題の解決に活かすデータサイエンス(DS)が注目を浴び、全国的に「数理・DS・AI教育」科目を設置する大学が増えています。国の施策でも、2025年には大学と高専の全卒業生約50万人に基礎的なリテラシーレベルの能力を身に付けさせたいとして、数理・DS・AI教育認定制度を2021年度に立ち上げました。本大学も、各学科のカリキュラムに「数理・DS・AI教育」科目を採り入れ、認定制度に適合した教育プログラムの実施

が進みつつあります。とはいえ、教授陣の充実や学生のモチベーションの持ち方など、課題も少なくありません。科目の担当者や関連する委員会などを有機的に連携させ、学生にとって有意義な数理・DS・AI教育が実施できる環境整備を構築することを新たな年を迎え決意しております。



副学長 森下 伊三男

本大学では、建学の精神に謳われた社会性・創造性・人間的知性に富み、文武両道で数理・DS・AIの能力を備えた学士力・高い規範意識を持った学生の育成に教育職員・事務職員が一丸となって取り組んでおります。皆様の御理解と御支援を賜り、「魅力ある大学」として更なる発展を目指して、より一層の努力をしていく所存です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## “朝日チャッチャッチャ”

新年あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げますとともに、新しい年も皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、昨年11-12月の1か月間はサッカーワールドカップで世界中が盛り上がりました。日本も強豪国を次々倒しベスト16まで行きましたが、残念ながら悲願のベスト8には進めませんでした。テレビ観戦しながら試合後の監督や選手の「新しい光景を見たい」というコメントが心に残りました。無論日本サッカー界として未踏のベスト8、経験したことのない喜びなど感情のことを指しているのでしょう。観ている我々も一緒になって同じ夢を見てワクワクしました。

2002年のワールドカップ日韓開催で日本がベスト16に進んだ時などは朝日大学でも何組かの学生が群れて“日本

チャッチャッチャ”とやりながら大学周辺を練り廻っていたことを思い出しました。これもスポーツが我々の背中を押すパワーであり、あらためてスポーツの持つ素晴らしさを認識したときでした。

2023年は、朝日大学の各運動競技部の諸君にも頑張っていた、我々朝日が一体となり“朝日チャッチャッチャ”と応援している光景を実現して欲しいですね。これも朝日大学が「選ばれる大学」の大きな要因になることは間違いありません。

教職員の皆様には、本年もなお一層のご協力とご支援をお願いいたします。



副学長 田村 康夫

## 「新たな飛躍」を期待して

新年あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

昨年暮れから始まりましたコロナ感染第8波の終息も見通せないなか、新年1月2日に米国カリフォルニア州パサディナ市で行われました第134回ローズパレードに、体育会吹奏楽部が参加し市内の大通りを行進いたしました。この新年の行進は、本学がWithコロナからPostコロナそしてBeyondコロナへと展開していくためのファンファーレとなってくれる事を期待しています。

昨年も本学におきましては、学生達の素晴らしい活躍が続きました。第115回歯科医師国家試験では歯学部の新卒者80名が合格し、既卒者を含めた総合格者数では全国3位となりました。第111回看護師国家試験では看護科卒業生97名が合格、第108回保健師国家試験では受験者10名全員が合格しました。令和4年度公認会計士試験「論文式試験」では経営学部の学生と研究生が計6名合格し、本学出身の合格者累計が56名となりました。また、歯

学部2年のデュアーヒューさんが、「第28回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会」で優勝し、日本代表として本年3月に米国オレゴン州ポートランドで開催される「国際歯科研究学会米国部会」で発表することになりました。さらに、法学部防犯ボランティア「めぐる」が「令和4年度安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

本年におきましても学生達の新たな飛躍を心から期待しておりますが、教職員の皆様におかれましては、建学の精神に謳われた社会性・創造性・人間的知性に富む人間の育成を目指し、学生にとってより良い教育、より良い教育環境を提供できるよう、一層のご協力とご支援の程をお願い申し上げます。



副学長 江尻 貞一

## 「創立50周年記念誌」を発刊

2021年に創立50周年を迎えた本大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、「記念式典」並びに「学術講演会」など催事の開催はかないませんでした。

その一方、過去（創立からの50年の振り返り）、現在（50周年を迎えた朝日大学の現在）、そして、未来（「建学の精神」に基づく永遠の命）をつづった「創立50周年記念誌」を発刊させていただくこととなりました。

是非、お手に取っていただきご覧いただければ幸いです。



古田肇岐阜県知事(中央)、宮田淳理事長、大友克之学長の鼎談

## ハワイ大学マノア校で短期海外研修!!

本大学とハワイ大学マノア校教育学部との「学術交流に関する覚書(2018年4月締結)」に基づき、「Department of Kinesiology and Rehabilitation Science(以下KRS)」のプログラムによる「第2回保健医療学部健康スポーツ科学科学生短期海外研修」が2022年9月3日～12日の日程で行われ、学生6名が研修プログラムに参加しました。

### アメリカ・ハワイにおける大学教育を実体験

宮田淳理事長、大友克之学長が出席したオープニング・セレモニーでは、学生が英語で自己紹介を行いました。



研修では、講義や実技の見学と

英語で行われる授業を熱心に受講

体験、NCAAトップレベルの体育会運動部の見学など、アメリカ・ハワイにおける大学教育の特徴及びスポーツアクティビティの位置づけと魅力を網羅したプログラムが提供され、非常に充実した研修となりました。

本大学は、「建学の精神」に立脚し、ハワイ大学と本大学との研修交流を今後さらに深めていきます。

## テキサス大学サンアントニオ校で短期海外研修

### 最新の3Dシステムで研修

本大学歯学部学生と姉妹校の明海大学学生10名が、2022年8月19日～8月29日の日程で、テキサス大学サンアントニオ校(アメリカ)での短期海外研修に参加しました。

同研修では、はじめに同大学Henrich学長とLoomer歯学部長を表敬訪問。コロナ禍で中断していた国際交流再開への謝辞を述べました。その後学生たちは、歯学部病院で同大学学生の診療介助を行い、IT導入が進んでいる歯学部校舎での、最新3Dシステムを用いた解剖実習や支台歯形成実習に参加したことで、実習に対する本大学学生の意欲が高まったようです。

また、学外研修では、テキサス革命の舞台となったアラモの砦を訪れるなど、異文化・多文化への理解を深めることができました。



テキサス大学歯学部病院前にて

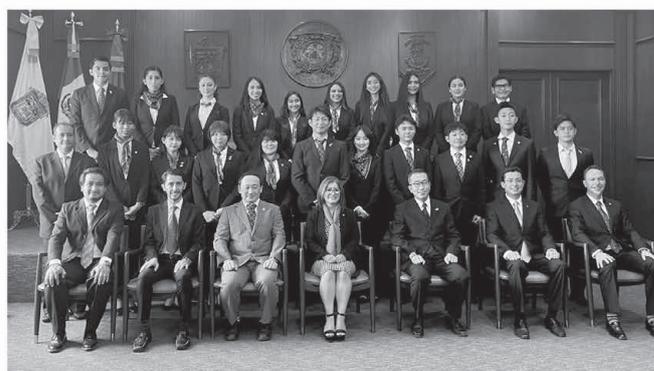
## メキシコで3年ぶりの海外研修

一方、歯学部5年生の5名が、姉妹校である明海大学歯学部学生らと共に、姉妹校協定を締結(1993年6月)しているメキシコ州立自治大学(UAEM:トルーカ)で、2022年8月22～31日の日程で短期海外研修を行いました。コロナ禍で2年間中止となっていたことから、メキシコでの研修は実に3年ぶりとなりました。

### 実際の診療に参加

UAEMでの研修の一番の特徴は、学生歯科医師として実際に診療に参加できることです。今回も「児童に対する、う蝕予防処置」に携わることができました。また、歯科技工士専門学校では、インレーワックスアップを行ったり、「宮田慶三郎デンタルリサーチセンター」を見学するなど充実した研修内容となりました。

また、恒例のメキシカンパーティでは、これまでにない歓待を受け、世界遺産のティオティワカン、メキシコで一番美しい街サンミゲル・デアジェンデの見学など、歴史と異文化にも触れることができました。



正装で記念撮影

## ハワイ大学マノア校の「NICEプログラム」に参加

### 英語力が高まり修学意欲も向上

本大学の法学部と経営学部の学生2名が、姉妹校の明海大学学生らとハワイ大学マノア校Outreach Collegeにおいて2022年8月28日～9月18日の日程で短期海外研修に参加しました。

学生らは、同大学が開設している「NICEプログラム」に積極的に取り組むことで、英語力がより高まり修学意欲も向上しました。

3年ぶりとなった法学部と経営学部の短期海外研修は、「建学の精神」に立脚し、海外での研修を通じて、国際感覚の涵養及び語学力(英語)の向上を図ることを目的として行われています。



研修修了式での一コマ

## 「名誉会員の称号」を受ける!!

本大学教授の山内六男先生が、多年にわたる口腔インプラント学ならびに学会の発展への寄与が高く評価され、2022年9月に公益社団法人日本口腔インプラント学会から「名誉会員」の称号を受けられました。



## 日本歯科色彩学会「優秀論文賞」受賞!!

「第29回日本歯科色彩学会総会・学術大会」(オンデマンド開催)において、専修医(歯科保存学分野歯冠修復学)の越智葉子先生が、筆頭著者の論文「新規光触媒の創製と試作ホワイトニング剤の漂白効果の検討(歯科の色彩第28巻第1号に掲載)」で「優秀論文賞」を受賞されました。

ハイドロキシアパタイト(HAP)構造を有した新規光触媒を創製し、その光触媒機能と試作ホワイトニング剤の効果の検討を行った研究で、更なる発展が期待される研究分野です。



「優秀論文賞」受賞の越智先生(左から2番目)

## 「SCRP」で日本代表!!

国内21大学の歯学部学生が参加した日本歯科医師会主催の「第28回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会」において、歯学部2年生のデュアーヒューさんが「チェアサイドで使用可能な圧力可変式サンドブラスターの開発」と題して、ビデオ発表を行いました。

1次審査通過の6名に選抜されたヒューさんは、2022年8月26日に行われた本戦(オンライン)でみごと優勝に輝き、朝日大学として初の「日本代表」に選出されました。今後、デュアーさんは、アメリカオレゴン州ポートランド市で3月15日から開催される「国際歯科研究会米国部会」に招待されており、現地で発表を行う予定です。



「日本代表」の栄誉に輝いたデュアーヒューさん(右端)

## 「岐阜県魅力発見・企業訪問」

学部・大学院や留学生別科日本語研修課程で学ぶ外国人留学生在が、2022年8月22日に岐阜県及び岐阜県ベトナム友好協会が主催する「岐阜県魅力発見・企業訪問バスツアー」に参加しました。

このバスツアーは、留学生と県内企業との交流促進、留学生が岐阜の魅力に触れる機会を提供することを目的としています。



日本の航空宇宙技術について学ぶ

## 「結合組織移植」をマスター

### 総合臨床歯科医師の育成

本大学と明海大学歯学部生涯研修部が主催する研修プログラムが、2022年9月4日に穂積キャンパス1号館臨床系実習室で開催され、14名の歯科医師らが熱心に研修に取り組みました。



実践的な研修が行われる

クリニカル・ステップアップ「結合組織移植(CTG)をマスターするー根面被覆から歯槽堤増大術までー」をテーマとした今回のプログラムでは、4名の講師をお招きして「歯周外科総論といろいろな移植のテクニック、診査・診断・適応症の判断、様々な術式の選択、切開・剥離・縫合」の講義、「少数歯・多数歯における根面被覆術や歯肉増大術」などの実習が行われました。

受講者からは、「すべてにおいて満足できるセミナーだった」との声が聞かれました。

## 腎臓病について

### 沈黙の臓器を診察治療

腎臓内科は、尿検査や血液検査などの異常時に受診することが多く、腎機能障害が進行しなければ自覚症状はなく、一般的には馴染みの薄い診療科です。しかし、腎臓は、いったん悪化すると正常な機能には戻ることがない臓器のため、検診を受けて異常などを指摘されたら、必ず受診をしてください。

朝日大学病院(岐阜市橋本町)の腎臓内科では、急性腎障害などの急性腎不全や、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、透析導入治療など、さまざまな腎臓病治療を行っています。

また血液浄化センターでは、最適な血液浄化治療が提供できるよう努めています。透析医療のみならず、LDLアフェレーシスやG-CAPなどの血液浄化治療は急速な進歩を遂げており、患者様に最新の医療を提供できるよう、日々知識と技術を高める努力をしています。



名古屋大学腎臓内科から医師派遣を受ける

## 「Rose Parade」へ アジア・オセアニア地域代表!!

### ローズトーナメント協会会長来学!!

「第134回ローズパレード」(アメリカ パサディナ市で開催)に、本大学体育会吹奏楽部が、「岐阜県選抜マーチングバンド」の一員として出場が決定しました。

これを受け、2022年9月15日、ローズパレードをプロデュースするローズトーナメント協会会長のエイミー・ウェンスコット氏をはじめ関係者が来学され、大友克之学長を表敬訪問。その後、大友学長とウェンスコット会長らは、古田肇岐阜県知事を表敬訪問し、「ローズパレード」にアジア・オセアニア地域代表として参加することを報告しました。



古田岐阜県知事へ出場を報告

### ローズパレード出場旗授与のセレモニー

翌16日には、穂積キャンパスに学内外から約200名が集い、ローズパレード出場旗授与式が行われました。

体育会吹奏楽部は、音楽による国境を越えた交流により、日本とアメリカの友好の橋渡しになれるよう活動していきます。

## 高大連携で 「公認会計士試験」6名合格

体育会会計研究部所属の学生6名(卒業生2名を含む)が、2022年11月18日発表の「公認会計士試験(論文式試験)」にみごと合格しました。

公認会計士試験は「短答式試験」と「論文式試験」の2段階で行われ、学生たちは合格率7.7%(出願者18,789名で1,456名合格)の超難関試験である「論文式試験」に挑み、みごと同試験突破を成し遂げました。

### 高大連携による成果

本大学では、高等学校と大学の7年間で公認会計士をはじめとする高度な会計資格を取得できるよう、2012年度から充実した会計教育を行っており、これまでに56名の公認会計士試験合格者を輩出しています。



大友克之学長に合格を報告

## フェンシング 全日本選手権を制す!

「第75回全日本フェンシング選手権大会(LINE CUBE SHIBUYA:東京都、2022年9月8日~10日、11月5日)」において、体育会フェンシング部OBで東京オリンピック6位入賞(フルーレ女子団体)の辻すみれ選手(大垣共立銀行:2021年度法学部卒業)が、フルーレ女子個人を制し、同種目で3年ぶりの頂点に立ちました。また、サーブル女子個人では、佐野佑衣選手(法4年)が5位入賞の好成績を収めました。

**ラグビー** 東海学生ラグビーリーグ  
(2022年9月18日~10月30日)で13連覇達成

**自転車競技** OBの小原佑太選手  
(競輪選手:2017年度卒業)が1kmTTで  
日本新記録樹立  
(自転車トラック世界選手権、フランス、2022年10月14日)

## ~ようこそ朝日祭へ~

「2022年度朝日祭」が3年ぶりに穂積キャンパスで2022年10月15日に開催されました。

新型コロナウイルス感染対策を講じ、規模を縮小して実施した大学祭では、学園祭定番



朝日祭でのコマ

の各種コンサート、ビンゴ大会、学友会クラブや教職員らによる活動報告なども行われ、久しぶりに若者たちのエネルギーがみなぎった「朝日祭」となりました。

## 「国民体育大会」で活躍

「いちご一会とちぎ国民体育大会(第77回)」が2022年10月に開催されました。「夢を感動へ 感動を未来へ」をテーマに栃木の地で体育会の選手たちが活躍し、大会を盛りあげると共に朝日大学の名を広くアピールしました。

### ホッケー

準優勝 丹羽 巧磨 選手(法4年:岐阜)  
藤井 辰憲 選手(本大学事務職員)

### 自転車競技

1kmタイムトライアル	4位入賞	山本 大智 選手(経営3年:愛媛)
	7位入賞	上杉 有弘 選手(経営3年:福井)
ケイリン	優勝	森田 一郎 選手(経営4年:埼玉)
4km団体追抜競走	6位入賞	上杉 有弘 選手(経営3年:福井)
	4位入賞	森田 一郎 選手(経営4年:埼玉)
チームスプリント	6位入賞	吉野 太晟 選手(経営3年:岡山)
	7位入賞	野田 勇飛 選手(経営2年:福岡)
	8位入賞	安達 光伸 選手(経営3年:岐阜)
ポイントレース	8位入賞	安達 光伸 選手(経営3年:岐阜)

# NEWS

## 「思い」を英語で主張

朝日大学主催「第38回高等学校英語弁論大会」(後援:岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞社、NHK岐阜放送局、沖縄県教育委員会、在名古屋米国領事館)が、2022年11月26日に穂積キャンパスで開催されました。

### レベルアップするスピーチ能力

38回目を迎えた本大会へは、県内外60の高等学校から116名の応募があり、厳正なる1次書類審査を通過した岐阜県、愛知県、滋賀県、沖縄県ほかから25名の生徒が、ゼスチャーやユーモアを交えた英語スピーチを披露しました。



受賞者たちが笑顔で記念撮影

受賞名	題名	氏名
最優秀賞	Confidence in the Face of Loneliness	クリティカ ガレー (東京都立田柄高等学校2年)
優秀賞	Climate Change: A Threat We Face	バサン エンジェル ソフィア バアール (岐阜県立土岐紅陵高等学校1年)
奨励賞	Is True Happiness in the Gacha?	春山 夏菜絵 (私立筑陽学園高等学校2年)
岐阜県教育委員会賞	Life in a year	安永 ころこ (沖縄県立開邦高等学校2年)
瑞穂市長賞	Biases called "joushiki"	服部 美海 (私立清林館高等学校1年)
岐阜市長賞	Stepping Into an Educational Revolution	柴田 息吹 (私立光ヶ丘女子高等学校2年)
中日賞	Do you want to ride an elephant?	多和田 芽依 (岐阜県立岐阜高等学校1年)

## 『税を考える週間』特別講義

穂積キャンパス6号館において、国税庁の『税を考える週間』(11/11~17)の一環として、2022年11月16日に名古屋国税局の磯部剛課税第二部長を講師にお招きし、「Turning Point(国税組織スリ戦えり)」と題した特別講義(法学部)を開催しました。

### 国際課税のルールが多様化

講義では、社会のデジタル化を背景に、1920年代から続いてきた国際課税のルールが変わりつつあること、モノから無形資産への課税に変化していること、GAFA等巨大企業の国際租税戦略が国際問題化していることなど、国際課税の意味、その重要性、市民生活との関連性等について解説がなされました。また、税の現場運営責任者の視点からは、タックスヘイブんと租税条約を駆使した巨大企業の国際租税回避スキームについての興味深い話題も提供されました。

受講した約170名の学生たちは、国際課税の現状と課題などを熱心に聴講、税について改めて考える時間となりました。



磯部名古屋国税局課税第二部長が国際課税を解説

## 「栄養サポートチョコレート」を開発

### 退院後の栄養不足を解消

本大学経営学部で商品開発を学ぶ学生、朝日大学病院(岐阜市橋本町)、菓子メーカーの(株)鈴木栄光堂(大垣市)がコラボレーションして開発した「栄養サポートチョコレート」が完成し、2022年11月から一般販売が開始されました。

今回開発販売されたチョコは、入院患者が退院後に食欲減退で栄養不足となるケースが数多く報告されていることから、それを解消しようと「栄養サポートチョコレート」として開発が進められました。

チョコは、手軽に食べられるようにと、たんぱく質を豊富に含む栄養サポート食品として開発され、「豆乳チョコレート、ほうじ茶チョコレート」の2種類を販売、甘さを抑えサクサクとした食感が特長となっています。開発に携わった学生は、「何回も試作を重ねた結果、とても良い商品に仕上がったことから、是非、香りや歯応えを楽しんでください」と話していました。

明治10年(1877)創業の(株)鈴木栄光堂は、お菓子を通じて世の中の笑顔を増やす「お菓子のイノベーションカンパニー」として社会に貢献しています。



「栄養サポートチョコレート」を開発販売

## 防犯ボランティア団体「めぐる」の活躍

### 「柿の大量盗難」防止に協力

法学部学生で組織する自主防犯ボランティア団体「めぐる」は、近年「柿の大量盗難」が相次いでいることから、岐阜県警察やJA関係者とともに2022年9月2日、盗難防止警戒パトロール出発式に参加して、近隣の柿農園で巡回パトロールを行いました。当日は、県警ヘリやドローンによる上空からの監視活動も行われました。

### 交通安全運動に協力

「秋の全国交通安全運動」にあたり、「めぐる」は2022年9月21日に岐阜県警察交通機動隊(瑞穂市内)で行われた出発式に参加して、パトカー、白バイ、各ボランティア団体とともにパトロールや交通安全啓発活動を行いました。

2022年9月24日には、イオンモール大垣の太陽の広場(大垣市)において、大垣日大高等学校の生徒と、10月1日から施行される「岐阜県自転車条例」の啓発活動を行い、地域の方々へ自転車の安全な利用方法等について説明しました。



イオンモール大垣で自転車の利用方法を説明